

中濃農林事務所の普及活動状況 令和4年11月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農予定者 就農予定地の準備

10月28日、美濃市須原地区にて来年度就農予定者のほ場に獣害防護柵を設置する取り組みを支援した。

当日は、新規就農予定者、地元の農家、ぎふの田舎応援隊^{*}、ぎふアグリチャレンジ支援センター、美濃市産業課、中濃農林事務所の約20人が参加した。新規就農予定者は現在農業法人で働いており、農作業に関するスキルは高く、本人より作業者へ設置作業の指示が出され、約1haのほ場を600m程のワイヤーメッシュで囲った。

来年度はスイートコーン、さつまいもを栽培する計画であり、農業普及課では就農準備、就農後の管理技術を支援していく。

(地域支援係)

※「ぎふの田舎応援隊」とは、農村を守る保全活動や都市との交流活動を行う県のボランティア制度。個人や団体が登録し、隊員として募集の中の希望する活動に参加する。



【応援隊が設置作業】

■就農塾（さといもコース） 学習支援

令和4年度JAめぐみの就農塾（さといもコース）の講座が3月から開催されている。中濃圏域における、さといもの新規栽培者を育成する取り組みで、今年度は4名が受講し、これまでに植え付けから栽培管理、掘り取りなどを学習してきた。

11月17日は「貯蔵」がテーマで、塾生は機械による掘り取りの見学後、芋の運搬と山積み、ワラかけ作業を実習し、最後に機械による覆土作業を見学した。塾生は熱心に作業や情報交換を行い、作業時の注意点等を習得した。

農業普及課は、今後も就農塾支援を行い、塾生がスムーズに就農できるよう支援していく。

(地域支援係)



【貯蔵実習】

■農業大学校 先進農家等派遣学習状況確認

農業大学校生の先進農家等派遣学習について、指導農業士等と連携しながら管内の先進農家等にて受入れを行っている。2年生は10月3日～11月5日に実施され、管内では学生2名の受入れを行った。

10月28日、農業大学校の先生とともに、受入農家を訪問し、学習の実施状況を確認した。学生は意欲的に学習に取り組んでいる様子であった。農作業だけでなく、受入農家から経営ノウハウを聞き取るなど、実践的に農業経営を学ぶ貴重な体験となっている。

農業普及課では、将来の貴重な担い手を育成する農業大学校の活動を、指導農業士等と連携しながら支援していく。

(地域支援係)



【学習状況】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■ぎふ清流GAP評価制度 さとも選果場のGAP点検

11月4日、JAめぐみの中濃営農経済センター及び営農対策課担当者とともに、さとも選果場のGAP点検を行った。

生産組合でのGAPの取り組み方を模索する中で、「まずは選果場の点検を行ってみよう。」ということとなり、ぎふ清流GAP施設評価基準の42項目について 選果場担当者への聞き取りや現地を確認しながら、点検を行った。

今回の点検で、選果場担当者は、具体的にどういうことに気を付けていくことが必要なかが明確になったようで、今後の改善が期待される。

農業普及課では、今後もさとも選果場の改善活動を支援するとともに、関係機関等と連携しながら、GAPの取り組みの更なる推進を図っていく。(地域支援係)



【選果場のGAP点検】

■水稲 難防除雑草「ヒレタゴボウ」対策

中濃管内では近年、黄色い花が咲き、草丈が1m以上、太く固い茎となる、難防除雑草の「ヒレタゴボウ」が発生する水田が増加している。「ヒレタゴボウ」が多発した水田では、水稲収穫前に手で取り除く必要があり、また、減収の原因となっている。

翌年の発生密度を抑えるため、発生が多かった水田にて、刈取後に除草剤2剤の散布を計画し、秋起こし前の10月26日に生産者が液剤を散布し、秋起こし後の11月22日にメーカー担当者が粒剤散布を実演した。令和5年の水田中干し後に、「ヒレタゴボウ」の発生程度を調査する予定である。

農業普及課では、田植え後の除草剤も含め防除効果の調査を行い、対策方法を検討し、水稲生産者へ結果を周知していく。(地域支援係)



【粒剤散布の実演】

■水稲（採種） 研修会

(農)美濃種子およびその構成員が、水稲4品種について約54haで種子の生産を行っている。

無事、10月25日で全ほ場の収穫が終わり、11月9～11日に栽培研修会を開催し、今年産の栽培を振り返り、次年度の生産に向けた検討を行った。天候に比較的恵まれ、生産者のこまめな管理もあって、昨年産よりいずれの品種も収量が増加する結果となった。

農業普及課では、生育・病虫害の発生状況、種子審査の結果などを報告し、次年産に向けて病虫害・雑草防除対策や倒伏対策などについて指導を行い、次年産の栽培暦について変更点などを説明した。

今後も、引き続き種子生産を支援し、優良種子の確保につなげていく。(地域支援係)



【研修会】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■ 円空さといも 丸芋率向上や機械化体系に向けた試験ほ調査

中濃地域で広く栽培されている円空さといもは、丸い形が特徴であるが、長い芋も収穫されており、丸芋の割合を向上させることが課題となっている。また、機械化体系の畝内施肥を進めるにあたって、基肥の種類を減らす必要がある。

11月1日、関市内の円空さといも生産組合員のほ場において、丸芋率向上に向けた土壌改良材試験と機械化体系の基肥試験の掘り取り調査を肥料メーカー等と合同で行った。

農業普及課では、産地の発展に向けて、丸芋率向上や機械化体系導入を継続して検討していく。
(地域支援係)



【掘り取りした里芋】

■ ゆず 「かみのほゆず」出荷開始

11月に入り、ゆずの果実が色づきを増し、「かみのほゆず」の収穫時期を迎えた。生産者による目揃え会の開催後、11月7日よりゆずの集荷が始まった。

コンテナに入れられたゆずが次々に集荷場に持ち込まれ、作業員が選別および重量測定を行った。皮のきれいなゆずは青果として販売され、傷や汚れの目立つものは搾汁用として利用される。

今年は着果数が少ない裏年に当たり、出荷量は昨年より少なめであるが、11月24日までに18tの集荷があった。

農業普及課では、高単価が期待できる皮のきれいなゆずの生産量を増やすため、ゆず研究会を開催し、生産者への栽培指導を行っている。



【選果場の様子】

(地域支援係)